

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470500677	事業の開始年月日	平成15年2月1日
		指定年月日	平成18年4月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり		
所在地	(〒232-0042 ) 横浜市南区堀ノ内町2丁目136番地の3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成29年12月25日	評価結果 市町村受理日	平成30年6月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・人生の先輩であるご利用者さんの尊厳を大切に、且つ、個性を尊重したケアを実践する事によって平均介護度が高いにもかかわらず穏やかに過ごされている。

・協力医療機関・在宅医療と連携をとり、24時間連携体制を確保し、早めの処置により重度化を防いでいる。また、最期を住み慣れたみのりで過ごしたいと強く希望なさるご利用者さん、ご家族に対しては、医師、看護師の協力のもと看取り介護を支援している。

・食事については、健康な生活を保つために大切な事と捉え、調理スタッフと職員が連携しご利用者さんの好みの味を工夫し、食事を楽しんでいただけるようにしている。

・日常生活の中で、ご利用者さんそれぞれの出来る事や、潜在能力をみつける工夫をしている。また、離床時間と臥床時間のメリハリをつけ、生活リズムを整え、散歩・体操・レクリエーション等により筋力低下防止をはかっている。

・炭酸泉による足浴で血行を良くし、タオルで、顔、手、頭皮を拭き、気持ち良さを味わってもらえるよう支援を行っている。また、毎食後の口腔ケアは、生涯自分の歯で食事が摂れるよう歯間もしっかり磨き、歯槽膿漏や歯周病予防に努めている。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年1月30日	評価機関 評価決定日	平成30年5月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

#### 【事業所の概要】

この事業所は、横浜市営地下鉄蒔田駅から徒歩7分程のバス通りのすぐ裏手に位置している。近隣は、古くから形成された既成市街地となっており、バス通りには、商店、コンビニエンスストア、事業所などが立地している。建物は、鉄骨造3階建であり、1階と3階には合わせて9室の居室、2階には、食堂、デイルームなどの共用スペースがある。従前は、個人の住宅として使用されていた建物であり、事業所開設時に改修したものである。そのため室内は随所に一般住宅の落ち着いた雰囲気が感じられる。居室は、1階と3階に分かれているが、利用者は、主に2階の共用スペースで一緒に過ごすことが多い。

#### 【理念の実践】

理念のキーワード「自立」、「残存能力を活かす」、「主体性」、「家庭的」、「尊厳」を大事にした支援に努めている。本人・家族から要望等をじっくり聴き取り、穏やかで温かみのある家庭的な雰囲気づくりを心がけている。一人ひとりのできる事、できない事について職員間で情報共有し、自立支援につなげている。車椅子使用の利用者には、トイレ誘導などの際、数歩でも歩くことにより達成感を味わえるように支援している。

#### 【ゆったり過ごせる共用空間】

居室のある1階と3階には、ゆったりした応接スペースが設けられており、家族や友人の面会の際にも活用されている。2階には、食堂、キッチンの他に独立したデイルームが設けられている。壁面には、風景画などの絵画が数点が飾られ、ピアノが設置されているなど落ち着いた空間になっている。職員によるピアノ演奏に合わせて歌を歌うなど、レクリエーション活動に使われている。部屋に面した日当たりの良いベランダの植栽には、可憐なメジロの訪問が見られ、目を楽しませている。毎日、電気掃除機及びモップを使用して掃除をし、換気を心がけるなど清潔で快適な環境づくりに努めている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム みのり
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング、申し送り帳などを活用し理念を共有、実践に繋げている。いつも確認、振り返りができる様に各階に掲示している。	理念は、事業の開始時に法人代表と管理者が中心になり作成したものである。暖かみのある家庭的な雰囲気づくりを目指すという思いを込めている。ミーティング等では、理念のキーワード「自立」「主体性」「家庭的」「人としての尊厳のある生活」を意識してケアの振り返りを行い、理念に沿った支援に取り組んでいる。各階に理念を掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、安全に配慮し御利用者1名に対し職員1名体制で散歩に出掛け、地域の人達に声をかけ合い、関係を深めている。	町内会に加入しており、町内会役員が運営推進会議に参加している。事業所の避難訓練に地域の方が参加し、利用者、職員が地域の防災訓練に参加している。コーラスのボランティアが来訪し懐かしい歌を一緒に歌い楽しんでいる。また、法人内の他事業所と合同で中学生のボランティアを受け入れ、歌や手遊びで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方に認知症や季節ごとに流行しやすい病の予防策などの情報を提供する場としても声をかけている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>防災訓練を会議の中で実施、意見交換して避難場所について話し合いをし、確認を取り合った。活動状況を報告することにより地域の方も地域で出来ることはと、みのりに対して協力体制を整えてくれている。みのりでも開催時期に合わせた情報を提供している。</p>	<p>会議は、2ヶ月に1回開催している。利用者家族、町内会役員、地域包括支援センター職員が参加している。運営状況の報告や意見交換をしている。熱中症対策、避難訓練、インフルエンザ対策について地域包括支援センター職員、消防職員が参加し話している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>判断、理解が出来ないときは相談し、指導を受け、確認しながらケアサービスに取り組んでいる。市に運営推進会議の内容及び活動状況を報告している。</p>	<p>成年後見制度や誤薬などの事故報告について区の担当課に相談している。介護保険でのサービス範囲についてなど、市の担当課の指導を受けている。横浜高齢者グループホーム連絡会南部ブロックの会議に参加し事業者間で情報共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待防止法で示されている行為と具体的な例をいつでも見られるように介護記録の整理キャビネットに入れ確認している。但し防犯、安全面の配慮から、玄関の門扉は1Fに職員が居なくなる時は施錠を行う。	身体拘束廃止のマニュアルに基づき、拘束しない介護に取り組んでいる。門扉は安全のため施錠しているが玄関は施錠せず職員の見守りで対応している。「禁止」という言葉は、他の言葉に置き換えるなど、理念でうたう「主体性」「人としての尊厳」を大切にしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修を内外で受け、スタッフ一同で情報の共有を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用しているご利用者さんは1名おり、必要な時に対応できる様に研修を受けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	しっかり説明を行い、同意を得ている。ご家族が来所された折には活動状況等報告し、コミュニケーションを持ち、よい関係を作り出し疑問や不安を表出しやすい環境にしている。			

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族と職員の連絡を密にし、よりよいケアを実現する事を目的に、意見・要望が出しやすい環境作りを心掛けている。ご家族が面会に来所なさった折には、職員皆が積極的にコミュニケーションを取っている。</p>	<p>運営推進会議の場や面会時に家族から意見を聞いている。利用者、家族の意見、要望を踏まえて、リハビリのための運動や、定期的な家族との電話連絡を支援するなどしている。毎月の家族への便りの他、3カ月ごとに介護計画の変更点等についての説明文を家族に送り情報共有している。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング時、又は業務の合間、意見交換が出来る態勢を作り、整え状況の変化に応じて現状に合った提案をサービスに繋げている。	毎月1回スタッフミーティングと勉強会を開催し意見交換している。日常業務の中でも意見、提案を出し合える職場環境になっている。入浴時間を柔軟にする変更は職員からの提案で実現している。また、利用者の状況変化に応じた居室の移動も職員からの提案によるものである。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップの目標等、社会労務士の指導を受け、整えている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が日常的に学ぶ事を推進しており、研修が受けやすい様勤務体制を整え、職員それぞれ段階に応じて当事業所内及び他事業所での研修参加の機会を作っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修、現場交換研修に参加、同会社の他施設へのヘルプ業務を行い様々なケースを学びサービスの向上につなげている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とご家族にゆっくと見学してもらい、要望、疑問点、生活歴を傾聴し把握する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いが話しやすい対応と雰囲気作りに努めている。ミーティング、申し送り帳等でその都度の状況をスタッフ全員で共有する。また、管理者によるご家族との手紙のやり取りも毎月行い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一日の生活状態を観察し、必要な支援を把握、理解して、申し送り帳等に記録し、職員がケアの統一化を図り、共有するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事と出来ない事をきちんと把握し、出来る事を大切にする。また、掃除・植木の手入れなどを共に行い、本人の力が発揮できる場面を作り、職員もご利用者さんと助け合い、教え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の要望を把握し、行事への参加、ご家族対応が難しい場合での通院介助や外出支援等を、ご家族と協力しながら支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者さんの大切にしてきた、写真、手紙等を居室に飾って楽しめる様に工夫している。又、ご家族の来訪を歓迎し、馴染みの人、場との関係が途切れないように支援している。	知人や昔なじみの方の来訪が多い。家族と一緒に馴染みの焼き肉店、美容院へ出かけている。また、法事や月命日の墓参りを欠かさない方もいる。その際は、タクシーの手配をするなどの支援をしている。読書好きな利用者は歌の歌詞や料理の本を読んでいる。塗り絵や貼り絵などの製作に取り組んでいる利用者もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者さんがそれぞれ出来る事を、お互いに助け合っている。心配事のある人の話を聞いたり、何かにつけ「大丈夫？」等と、声をかけてくれたり拍手をして喜び合ったりと、よい関係が築けている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からの親族に関する相談を受け、サービス利用契約を新たに提案する事で支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者さんの思いや意向を伺い、介護計画の変更時に記載し、全職員が把握できる様にし、また、これまでの言動等から類推して、思いや意向に沿える様に検討・実行をしている。	3カ月に1回程度、定期的に、利用者から生活の仕方、楽しいこと、嫌なことについて聞いている。立ち上がる人が多い方には、理由を聞いたり、一緒に歩いたりして意向の把握に努めている。表情や視線に気を付け、目線を合わせて話しかけると穏やかな表情になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が、ご利用者さんの生活歴、生活環境を把握し、日常のケアに活かし、それぞれの個性に合った対応を行い、尊厳を守る事に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングや申し送り帳、勤務交代時の申し送りで、新しい発見、ご本人のさりげない言葉、一日の状態、ADLを全職員が共有・把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者さん、ご家族の思いや意向を伺い現状に合った暮らしやケアの方向を把握し、在宅医等の見解を取り入れ介護計画を作成し、モニタリングは3ヶ月/1回を基本とし、特変があった場合はその時毎に行う。	介護計画の見直しは、原則、短期計画3ヶ月ごと、長期計画6か月ごとでそれ以外でも必要な時は随時見直している。モニタリングは3ヶ月に1回行っている。見直しに当たっては、利用者本人の意向を尊重し、本人から同意をもらっている。職員からは、カンファレンス等で意見を聞き、医療関係ノートに記録した医療情報、家族から聞き取った意向等を反映している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画が分かりやすく記載された個別の記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、介護計画の見直しに役立っている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者さん、ご家族の変化するニーズに対応できる様な支援を行い、場合によっては、他の社会資源・施設等との連携もはかっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の警察、消防署と連携し、ご利用者さんが安全に生活できる様努めている。散歩で利用する公園、心が安らぐ神社のお参り、多くの人と交流をはかり日々の暮らしを楽しんでいただける様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望する医療機関へ出掛けられる際の車の手配等に協力している。連携医療機関を利用する場合は、本人やご家族に説明し了解をもらって受診している。	在宅医を協力医としており、連携を取りやすくしている。月2回の往診がある。専門科には家族同行で通院している。訪問看護師は週1回、歯科医は月1回と必要に応じて訪問している。訪問マッサージを利用している利用者もいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の毎週一回の健康チェックと、24時間相談できる態勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関や在宅医療と連携をとり、診療情報の提供を受け、安心した生活を過ごせるよう相談し、指導を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する指針を説明し、同意を得た上で医師、看護師、ご家族を交えて話し合い、方向性を確認し、看取り介護を支援している。普段の会話の中で、表現されることもあるので、日常の会話を大切にしている。	「重度化・終末期ケア対応方針」に基づき、利用者、家族に説明している。終末期の診断があった時は、家族、医師と対応を話し合い、合意に基づき看取りを実施している。今年度は数名の看取り事例がある。職員勉強会では看取りに関する話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署立ち会いのもとで、応急手当や初期対応の研修を受けたり、救命講習を受講。緊急対応マニュアルを目に付くところに掲示、確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員がご利用者さんをどのように安全な場所に誘導できるかのシミュレーションを行い推進会議の場で地域の方と意見交換をおこなっている。災害時用に水・非常食・介護用品を備蓄、整備している。 また、各居室内のタンス等の家具については転倒防止器具を設置し、安全を確保している。	防災訓練は年2回実施しており、その内1回は夜間を想定している。訓練には近隣の方の参加や、消防署の立ち合い、助言を得ている。家具等に転倒防止器具を設置し、食器棚のガラスは飛散防止の措置がされている。災害備蓄は3日分の食料と飲料水などを備蓄リストにより管理している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者さんの尊厳を大切に し、入浴や排泄時には、本人の 意思を尊重し個別性を大切に している。声掛けの言葉にも留意 し、さりげなく介助を行っている。	理念の「人としての尊厳のある 生活を送ることができるよ うなケア」を実践している。 職員は、利用者と目線を合わ せ、できる限りゆっくり伝わ りやすい話しかけをしてい る。法人内研修として、磯子 区職員を招いた「高齢者虐待 防止研修」を実施し、事業所 内で共有している。個人情報 に関する書類は施錠管理して いる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員はご利用者さんが自己決定 できるよう、閉ざされた質問を しないよう心がけ、本人がどう したいのか、何でも言える雰 囲気作りや関係を築くように努 めている。語られないおもいや、 希望も生活の中で職員が推測す るよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごした いか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性やこだわりを 尊重し、生活のリズムを守るよ うにしている。その都度要望を 聞いて柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものの支度は、ご利用者さ んの好みを大切にして、一緒に 洋服選びを行っている。また、 ヘアカットもご利用者さん一人 ひとりの好みに合わせて行っ ている。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>箸等の食器の準備や割れる危険性の無いお碗を拭いていただく等の片づけを職員と共に無理のない範囲で行っている。季節感を大切にした食事に留意し職員もご利用者さんと同じ物を食べながら食材や、季節等の思い出を話せる様、話題を提供している。</p>	<p>昼食と夕食の献立と食材は宅配業者を利用し、職員が調理している。朝食はスーパーマーケット等で購入した食材を使い職員が手作りしている。職員は見守りながら利用者と一緒に食事をしている。食事形態は利用者の状況に合わせて刻み食、とろみ食を提供している。職員手作りのお節料理や誕生日会のケーキを楽しんでいる。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理に配慮。食事量、水分摂取量を記録している。嚥下困難の方にはトロミを付けたり、ゼリーやスポーツドリンク等でご利用者さんの好みに合わせ、水分確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医から、助言をもらい、磨き残しがないよう、歯間ブラシも入れ、舌苔をきれいにするケアをひとり一人に支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けし、トイレでの自立にむけた排泄を支援している。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間を見て声掛けをしているが、本人の意思を尊重した対応を心がけている。きめ細かい対応により、トイレでの排泄が可能となった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、排便状況を記録している。10時のおやつは、腸内環境を整える一助としてヨーグルト・バナナ等が定番になっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、ご利用者さんの身体状況や当日の体調等に合わせ、シャワー浴や清拭等の方法も取り入れ、適宜行っている。入浴日以外では炭酸水で足浴を行っている。	入浴は週2回を基本としている。入浴時間は、午前または午後に固定せず柔軟に対応している。入浴を好まない時は、時間を変えて声掛けしている。入浴日以外は、血行促進等の効果がある炭酸水で足浴をしている。浴室には暖房設備がある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を尊重している。布団干し、リネン交換などこまめに行い、居室の温度・湿度・換気・採光に注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りや薬情報での確認。必要に応じて薬の解説と便覧の本を参照し把握を行っている。特に、薬の変更があった時には、申し送り帳に記載し、職員間で情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなこと、得意なことを把握し、縫い物、洗濯物たたみなど、職員と一緒にしている。又、日常のレクリエーションの中で、それぞれの楽しみ事が増えるように工夫している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、美容院、病院等、ご家族や地域の方との協力を得て行っている。一人ひとりの希望に沿うよう個別対応をしている。	天気の良い日に、少人数で近隣を散歩し、スーパーマーケットに買い物に出かけている。季節には、近隣の桜見物や多くの鯉のぼりが泳ぐ公園に出かけることを楽しみにしている。家族と一緒に外食や美容院等に出かける利用者がいる。	利用者の状況などにより、外出の機会が少なくなっています。移動手段などを工夫されて、外出の機会を増やすことを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理可能な方には所持してもらい、支援の必要な方には、行事、外出等の折には、自分で支払いが出来る様にお手伝いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけていただいている。ご自分でかけられない方は職員がお手伝いし、かかってくる電話は取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が、常に快適である様、清潔な環境づくりに努めている。2Fベランダにある庭には、四季の花が咲き小鳥が訪れる姿を見る事ができ、ご利用者さんに楽しんでいただいている。	居室のある1階、3階にはゆったりした応接スペースがあり、友人・家族の訪問の際等に活用されている。2階には、食堂、リビングのほかピアノが置かれたダイニングがあり歌やレクリエーション等を楽しんでいる。毎日の掃除は電気掃除機及びモップを使用しており清潔が保たれている。日当たりの良いベランダの植栽には時折、可憐なメジロの訪問があり、目を楽しませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各階に椅子・ソファがあり、ご利用者さん同士で談笑、テレビ観賞を楽しむ環境を整えている。職員がいなくても自分で、テレビが見られるよう、リモコンは手の届く所に置いてある。一方、自室でくつろぎたい方は読書、テレビ観賞して過ごしている。		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>鏡台、箆笥、お仏壇等、ご利用者さんのなじみ深い物を、引き続き使っていただき、ご家族の写真・手紙等も飾ったりして、それぞれの好みに合った居心地の良い居室作りに努めている。</p>	<p>ベッド、カーテン、エアコン、クローゼット、照明、温・湿度計が備え付けとなっている。寝具、テーブル、椅子、テレビなど使いやすい物が持ち込まれ、それぞれの居室に個性が出ている。職員は毎日モップ掛けの掃除を行い清潔感がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自室ドアの横には名札を貼っている。場所の名称、名札を飾ったり、一日のスケジュールを居室内に貼っている。</p>		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム みのり

作成日 平成30年 6月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	外出の頻度が過去と比較して減少傾向にある。	外出の機会を増やし、利用者が満足感や季節感をより感じられるように努める。	平常時の散歩だけでなく、花見等の季節ごとの行事も企画・実行する。	1年間
2		施設内設備において改善すべき点がある。	利用者が安全かつ快適に過ごせるように住環境を整備する。	通路やエレベーター入口付近、居室入口等への手すりの増設を行い、より安全な動線を確保する。	1年間
3		利用者によっては、通常食の摂取が困難なケースが出てきている。	誤嚥事故の防止と、各利用者の食事摂取量の確保に努める。	主食をおかゆに変更する・おかず類は刻む・汁物にはとろみを使用する等、食事内容の整備・見直しを常に行う。	1年間
4		事故・インシデント報告書について職員間での共有、報告が不十分な点がある。	情報の共有を徹底し、事故防止に繋げる。	勉強会を通じて報告の重要性を周知し、全職員が積極的に報告を挙げる。	1年間
5		利用者に対して否定のない介助・声掛けを徹底する必要がある。	利用者を尊重した介護を行う事で、利用者がより安心して暮らしていける様に努める。	利用者の行動一つ一つに対し、どのような目的意識や理由が背景にあるのかを考慮し、介助に繋げていく。	1年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。